第〇版（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日作成）

信州大学医学部附属病院　泌尿器科に
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

「免疫チェックポイント阻害薬時代における高リスク腎細胞癌に対する周術期治療に関する後ろ向き観察研究」に関する臨床研究を実施しています。

新潟大学医学部倫理委員会の承認を受け、医学部長の許可を得て実施しています。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

研究課題名	免疫チェックポイント阻害薬時代における高リスク腎細胞癌に対する周術期治療に関する後ろ向き観察研究
所属(診療科等)	泌尿器科
研究責任者(職名)	皆川　倫範（准教授）
研究実施期間	医学部長による許可日～2028 年 3 月 31 日
研究の意義、目的	進行した腎細胞癌の適切な治療を明らかにすることを目的とした研究で、腎細胞癌の予後改善に貢献すると考えられます。
対象となる方	2018 年 8 月 1 日から 2025 年3月 31 日までに下大静脈腫瘍塞栓があり、遠隔転移のない腎細胞癌と診断された患者さん（コホート A）。または、2022 年 8 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までに、根治的腎摘除術もしくは腎部分切除術を施行され再発リスクが高い腎細胞癌と診断された患者さん（コホート B）。
利用する診療記録	病歴（性別、年齢、身長、体重、使用薬剤）、血液・尿検査結果、画像検査結果、病理結果、手術記録、治療内容、治療効果などを使用します。本研究のため新たに検体、試料を採取することはありません。
他機関への試料・情報の提供方法	電子的配信により提供します
研究方法	過去の診療記録より上記の内容を収集し、腎細胞癌の予後と各種診療記録との関係性の有無について検討します。
共同研究機関名	新潟大学（責任者：大澤崇宏）、名古屋大学（責任者：赤松秀輔）、長岡赤十字病院（責任者：米山　健志）愛媛大学（責任者：三浦徳宣）、愛知県がんセンター病院（責任者：小島　崇宏）、岩手医科大学（責任者：小原航）、国際医療福祉大学成田病院（責任者：井上高光）、岐阜大学（責任者：飯沼　光司）、国立がん研究センター中央病院（責任者：松井喜之）、久留米大学（責任者：植田　浩介）、済生会熊本病院（責任者：渡邊　紳一郎）、京都大学（責任者：増井仁彦）、埼玉医科大学国際医療センター（責任者：城武　卓）、熊本大学（責任者：神波　大己）、新潟県立がんセンター新潟病院（責任者：晝間楓）、弘前大学（責任者：畠山 真吾）、神奈川県立がんセンター病院

	（責任者：鈴木敦人)、香川大学（責任者：杉元 幹史)、東京慈恵会医科大学附属柏病院（責任者：三木淳)、札幌医科大学（責任者：舛森直哉)、北海道がんセンター病院（責任者：原林　透)、三重大学（責任者：井上　貴博)、がん研究会有明病院病院（責任者：竹村公佑)、山形大学（責任者：土谷　順彦)、国立病院機構四国がんセンター（責任者：橋根　勝義)、山口大学（責任者：藤井央法)、中東遠総合医療センター（責任者：松下雄登)、産業医科大学（責任者：富﨑一向)、順天堂大学（責任者：永田 政義)、神戸大学（責任者：原　琢人)、千葉大学（責任者：佐塚智和)、大阪大学（責任者：河嶋厚成)、大分大学（責任者：秦聡孝)、長崎大学（責任者：大木雅晴)、鳥取大学（責任者：森實修一)、東京科学大学（責任者：田中一)、東京慈恵会医科大学（責任者：木村高弘)、東京女子医科大学（責任者：吉田一彦)、東北大学（責任者：伊藤明宏)、徳島大学（責任者：古川順也)、奈良県立甲斐大学（責任者：三宅牧人)、富山大学（責任者：北村寛)、福井大学（責任者：寺田直樹)、北海道大学（責任者：安部　崇重)、琉球大学（責任者：猪口淳一)、和歌山県立医科大学（責任者：山下真平)、岡山大学（責任者：別宮　謙介)、宮崎大学（責任者：賀本敏行)、九州大学（責任者：塩田 真己)、秋田大学（責任者：関根悠哉)、大阪公立大学（責任者：加藤実)、筑波大学（責任者：神鳥周也)、島根大学（責任者：和田耕一郎)、　日本医科大学（責任者：赤塚　純)、浜松医科大学（責任者：田村啓多）
研究代表者	主任施設の名称:新潟大学 研究責任者:大澤　崇宏
問い合わせ先	氏名(所属・職名):　皆川倫範(信州大学泌尿器科　准教授) 電話:0263 37 2661

既存の診療記録、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。

利用する情報からは、患者様を直接特定できる個人情報を削除し、主任施設である新潟大学に提供します。

研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、参加取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。